

平成22年度学校自己評価システムシート（山村学園高等学校）

目指す学校像	校訓「質実・英知・敬愛」を踏まえ、人格の完成を図るとともに、現代社会にふさわしい洗練された知性と、豊かな感性を備えた人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習意欲を向上させ、自主自立の精神を養いより豊かな人間性を身につけさせる指導を行う。特に自学自習の習慣化については個々の状況を踏まえ定着を図る。 生徒一人一人の能力や適性を生かした進路指導の実現を図るため、生徒の進路意識を更に深化させる。一年次から大学一般受験を念頭に、一段高い進路実現に結びつける指導を行う。そのため、進路指導部と各学年との連携を密にする。 授業・HR活動・学校行事・部活動・ゼミ・資格取得など、本校教育全般にわたり、学力及び体力の向上を図り、きめ細やかな指導により、生徒に達成感（成就感）を与える教育を行う。特に「7つの習慣J」については組織的に取り組む。皆勤・精勤を奨励する。 生徒の心情をよく理解し、その実情を踏まえ、確かな常識を身につけさせるような指導を行う。非社会的・反社会的行動の未然防止に努めるとともに、特に、あいさつの励行をはじめとして、本校生徒指導の根幹である「しつけ教育」について意を注ぎ、暴力やいじめは絶対に許さない姿勢で臨む。 生命を尊び、他を思いやる心・感動する心を持ち、コミュニケーション能力・協調性など、たくましく生きるための力を身につけさせる指導を行う。全職員が教育相談技術を向上させてこれらの指導に当たるとともに、カウンセラーを配置し、より積極的な相談体制を確立する。 保護者会・三者面談・授業公開など、あらゆる機会をとらえて本校の教育方針や指導の重点目標を話題として取り上げ、保護者等と積極的な連携を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	4名
	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
	・7つの習慣Jの授業の充実。	・生徒の自主性の育成	・「QU」と「ココカラ検査」を利用したHR経営と7つの習慣Jでの心の教育のさらなる充実。	・人間性豊かで他を思いやる生徒が増えたか。	体育祭や文化祭などの学校行事などを通して、また、「ココカラ検査」の結果からも、協調性や思いやりのある生徒が多くなった。	A 7つの習慣Jの更なる充実と、HR経営への活用
	・いじめの撲滅と不登校生徒の減少を図る。	・生徒の意見や悩みへの適切な対応。	・カウンセリングや個別面談の充実。	・不登校生徒の人数やカウンセリングを受けている人数。	専門のカウンセラーにおけるカウンセリングや、保護者との密接な連絡により、状況の把握がより明確になり効果が上がっている。	B 今年度の取り組みを継続し、教職員の更なる共通理解を図る。
	・生徒個々の能力や適性を生かした進路指導の実現を図る。	・生徒の進路指導の達成。 ・学力の向上と自学自習。	・進路ガイダンス、大学出張講義、進路相談会等の充実。 ・受験対策講座・長期休業中のゼミの関連性を深め、生徒個々の取り組みと、家庭学習の習慣化を図る。	・現役進学率 98%し、内大学進学率は 75%とする。 ・受験対策講座等の出席率 100%、与えられた家庭学習時間の実行率 50%の達成。	・現役進学率 94%、内大学進学率は 74%であった。また、進路実績は難関大学・GMARCHをはじめ、昨年以上の成果をあげた。 ・受験対策講座等の出席率9割を超えた。	A ・現役進学率 98%し、内大学進学率は 75%とするための指導を検討。受験対策講座の参加形態の工夫。家庭学習時間と成績の相関関係をどう生徒に理解させるか。
	・開かれた学校を目指し、学校からの情報発信を推進する。	・学校HPの活用、学校公開、学校説明会の実施。	・学校の様子をHPでタイムリーに公開する。 ・10月に学校公開を行う。	・HPの見易さと、情報の即時公開性。 ・保護者の参加数	HPに関してはおおむね良好。学校公開に保護者対象の講座を設けた結果、昨年よりも参加数が増加。	A HPの更なる充実。開かれた学校にするための各行事の工夫

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成 23 年 3 月 26 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣で得た評価や考え方をもっと授業で生かせるようさらに取り組んで欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 出席状況についてももう少しきめ細かなデータ集計を工夫して欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・進路実績は向上し評価する。特に男子の卒業初年度でもあり、理系への進学が顕著であったことや、GMARCHの合格者も着実に伸びていることは学校の魅力を支えるものである。職業体験・大学体験についても検討してみるとよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を計画的に実施しているし、反省も詳細におこなっており、評価に値する。教員の研修制度の充実を望む。 	